

2021 年度修士論文

タイ国籍Ｊリーガーの活躍がタイ本国におけるＪリ
ーグの認知拡大に与えた影響

The Impact of Performance of J. LEAGUE Thai
Players on Awareness Expansion
in Thailand

早稲田大学スポーツ科学研究科
スポーツ科学専攻 スポーツビジネス研究領域

5020A073-9

LI CHENGLONG

研究指導教員：平田 竹男 教授

目次

第1章	背景.....	1
第1節	Jリーグのアジア戦略.....	1
第2節	Jリーグのアジア戦略元での外国人選手制度の変遷.....	1
第3節	Jリーグでプレーするタイ国籍選手の活躍.....	2
第4節	先行研究の調査.....	3
第5節	目的.....	5
第2章	研究方法.....	6
第1節	Jリーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況の調査.....	6
第2節	Jリーグにおけるタイ国籍選手の活躍状況とタイ本国での話題の関係性 6	
第3節	タイ国における J1 リーグの報道環境の調査.....	7
第3章	結果.....	8
第1節	Jリーグにおけるタイ国籍選手の活躍状況とタイ本国での話題の関係性 8	
第1項	2017年シーズン.....	8
第2項	2018年シーズン.....	10
第3項	2019年シーズン.....	12
第4項	2020年シーズン.....	14
第5項	2021年シーズン.....	16
第2節	タイ国における J1 リーグの報道環境.....	19
第1項	GMM 時代.....	19
第2項	TRUE VISIONS 時代.....	20
第3項	SIAMSPORT&MCOT 時代.....	20
第4項	Facebook の投稿.....	21
第5項	Jリーグへ登録の選手に対しての効果.....	21
第6項	タイ国籍選手の在籍前後の Google Trends 値.....	22
第3節	Jリーグの海外放映及びアジア戦略の取り組み.....	23

第4章	考察.....	25
第1節	タイ国籍選手の試合出場とタイ本国での話題の関係性.....	25
第2節	2017年タイ国籍選手初のJリーガー誕生の影響.....	25
第3節	2019年タイ国籍選手のJリーグ優勝.....	25
第4節	Google Trends 値の変遷.....	25
第5節	タイ国籍選手のトリプルミッション.....	26
第6節	研究の限界.....	26
第5章	結論.....	27
	謝辞.....	28
	参考文献.....	29

図表目次

図 1	タイでの J1 リーグへの Google Trends 値変遷 (2017 年)	9
図 2	出場とアシストの Google Trends 平均値の比較 (2017 年)	9
図 3	タイでの J1 リーグへの Google Trends 値変遷 (2018 年)	11
図 4	「出場」「得点」「アシスト」「タイ国籍選手同士の対戦」の Google Trends 平均値 (2018 年)	12
図 5	タイでの J1 リーグへの Google Trends 値変遷 (2019 年)	13
図 6	「出場」「得点」「アシスト」「タイ国籍選手同士の対戦」の Google Trends 平均値 (2019 年)	14
図 7	タイでの J1 リーグへの Google Trends 値変遷 (2020 年)	15
図 8	「出場」「得点」「アシスト」「タイ国籍選手同士の対戦」の Google Trends 平均値 (2020 年)	16
図 9	タイでの J1 リーグへの Google Trends 値変遷 (2021 年)	17
図 10	「出場」「得点」「アシスト」「タイ国籍選手同士の対戦」の Google Trends 平均値 (2021 年)	18
図 11	TRUE VISIONS と J リーグの記者会見現場 (チャナティップ右下 2)	20
図 12	タイでの J1 リーグへの Google Trends 値変遷 (2012 年-2021 年)	21
図 13	2012 年-2021 年各年の Google Trends の平均値比較	22
表 1	外国人選手制度の変遷	1
表 2	2017 年 J1 リーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況詳細	8
表 3	2018 年 J1 リーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況詳細	10
表 4	2019 年 J1 リーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況詳細	13
表 5	2020 年 J1 リーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況詳細	15
表 6	2021 年 J1 リーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況詳細	17
表 7	タイ国内の J リーグ視聴環境の変遷	19
表 8	J リーグの海外放映状況	23

第1章 背景

第1節 Jリーグのアジア戦略

プロサッカーの世界で市場規模においては、イングランド、スペイン、ドイツをはじめとする欧州諸国が、競技面においては欧州に加え、ブラジル、アルゼンチンなどの南米の国々が世界のトップに君臨している。Jリーグは、日本サッカーのレベルアップだけでは、日本も含めたアジア諸国が世界のトップレベルに追い付き、FIFAワールドカップをはじめとする国際舞台で好成績を収めることはできないと考えていた。そこでアジア諸国から優秀な選手を獲得して、Jリーグでの活躍の場を広げることで、Jリーグの競技面におけるレベルアップを図ってきた。Jリーグで活躍するアジア諸国の選手が自国の代表チームで活躍し、強いライバルとなることによって、日本代表のレベルアップにつなげることと、アジア諸国の選手がJリーグで活躍することに繋がり、アジアの注目をJリーグに集め、Jリーグとアジアサッカーの市場拡大を目指していた。このような目的により、2009年から各チームの外国籍選手の登録数を拡大して、3名の外国籍選手枠に加え、アジアサッカー連盟加盟諸国の選手1名を登録可能とする「アジア枠」を設けていた。

そして、Jリーグは2012年にアジア戦略室（現在はアジア室）を設立し、アジア全体のサッカーのレベルアップをJリーグが主導して促進し、世界のサッカー市場におけるアジアの価値向上を目指して、本格的にアジア戦略の実行を開始した。そして、「アジア枠」に加えて、2014年から「Jリーグ提携国枠」（Jリーグ提携国はタイ王国、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、シンガポール、インドネシア、マレーシア、カタールの8カ国で、それらの国籍選手を対象として別に設けられた移籍制度）を設けた。「アジア枠」と「Jリーグ提携国枠」実施以来、Jリーグへの該当国からの選手移籍が増加する中、最も活躍しているのはタイ国籍選手であった。

第2節 Jリーグのアジア戦略元での外国人選手制度の変遷

Jリーグにおける外国人選手制度の変遷は表1通りである。

表1 外国人選手制度の変遷

	移籍制度	1993-2008年度	2009-2013年度	2014-2015年度	2016-2018年度	2019年度-
登録	一般外国人枠	3名まで	3名まで	3名まで	3名まで	登録数制限なし
	アジア枠		1名のみ	1名のみ	1名のみ	廃止
	Jリーグ提携国枠			2名まで	上限なし	登録数制限なし
出場	一般外国人枠	合わせて3名まで	合わせて3名まで	合わせて3名まで	合わせて3名まで	同時出場5人まで (アジア枠廃止、 一般外国人選手枠 と見なす)
	アジア枠		1名	合わせて1名のみ	1名のみ	
	Jリーグ提携国枠				制限なし	制限なし

1993年Jリーグの開幕から2008年まで、Jリーグの外国人選手制度は「一般外国人枠」（すべての外国籍選手を対象）のみであった。この時期において、一般外国人枠選手の登録は3名までで、出場も3人までであった。

2008年にアジア戦略の思想で、2009年から新たに「アジア枠」を設けた。この時期において、一般外国人枠の登録と出場の規定は変化がなかった。「アジア枠」の登録は1名のみで、出場も1名のみであった。

2012年、Jリーグからアジア戦略室を設立し、本格的にアジア戦略を実施し始め、2014年から新たに「Jリーグ提携国枠」を設けた。この時期においても、「一般外国人枠」の登録と出場は変化がなかった。「アジア枠」の登録は1名のみで、「Jリーグ提携国枠」の登録は2名までであったが、出場においては「アジア枠」と「Jリーグ提携国枠」と合わせて1名のみであった。すなわち、両制度の枠選手が一つの出場枠を競争するようになった。

2016年になると、Jリーグは外国人選手制度を改定し、「一般外国人枠」は変動なしで、「アジア枠」の登録と出場は2009年と同じく1名のみに戻った。「Jリーグ提携国枠」の選手は外国籍扱いではなくなり、日本人選手と同じく登録と出場は制限なしになった。この改定のより、「アジア枠」は前の「Jリーグ提携国枠」との出場枠競争から解放する一方、「Jリーグ提携国枠」は制限なしで登録しやすくなり、より多くのアジア籍選手を招くことがアジア戦略と合致している。

2019年になると、Jリーグは外国人選手制度を再度改定し、「アジア枠」は廃止され、「一般外国人枠」として見なすようになった。「一般外国人枠」の登録数は制限なしになり、出場枠においては同時出場が5人までになった。なお、「Jリーグ提携国枠」は2016年と同じく外国籍扱いではなく、登録枠と出場枠において制限なしであった。このことより、Jリーグのアジア戦略はJリーグ提携国を中心にするとなった。なお、「アジア枠」の廃止は該当国籍選手が他の一般外国人枠選手と競争するようになることが、Jリーグのアジア戦略のアジア籍選手の全面的なレベルアップという目的と合致している。

第3節 Jリーグでプレーするタイ国籍選手の活躍

2017年シーズンに、Jリーグに在籍しながら出場記録があったのがチャナティップ選手1人であった。初めてJリーグへ登録するタイ国籍選手として、チャナティップ選手は北海道コンサドーレ札幌への移籍を発表した後、すぐ主力メンバーとしてJリーグで活躍し始めた。

2018年シーズンに、Jリーグに在籍しながら出場記録があったのがチャナティップ選手、ティーラトン選手、ティラシン選手3人であった。そして、チャナティップ選手はこのシーズンのリーグ戦30試合で8ゴールを挙げて、シーズン終了後に札幌の選手投票で2018年シーズンの札幌のMVPに選出され、東南アジア出身初のJリーグベストイレブンにも選出された。なお、広島に所属するティラシン選手は北海道コンサドーレ札幌に所属するチャナティップ選手とのタイ国籍ダービーで、タイ人Jリーガーの初ゴールを獲得した。

2019年シーズンに、Jリーグに在籍しながら出場記録があったのがチャナティップ選手、ティーラトン選手、ティティパン選手3人であった。このシーズンにおいて、ティーラトン選手は、決勝を決まるFC東京との対戦でゴールを決めて、タイ人初のJリーグ優勝を

獲得した。なお、シーズン終了後、ティーラトン選手はJリーグ優秀選手賞に選出された一方、母国であるタイの年間最優秀選手賞にも選出された。

2020年シーズンに、Jリーグに在籍しながら出場記録があったのがチャナティップ選手、ティーラトン選手、ティーラシン選手3人であった。

2021年シーズンに、Jリーグに在籍しながら出場記録があったのがチャナティップ選手、ティーラトン選手2人であった。

第4節 先行研究の調査

Jリーグに関する研究を調査した。カテゴリー別に主に「経営」、「観客行動」、「医学」、「涉外」の研究が行われている。「医学」に関するJリーグの研究は調査制限があるため、先行研究のレビューから筆者より除外し、「経営」、「観客行動」、「涉外」という三つのカテゴリーで先行研究を調査した。

「経営」のカテゴリーの先行研究はまた、「Jリーグ経営」と「クラブ経営」に分けた。

「Jリーグ経営」の先行研究は以下の通りである。

尾崎ら（2006）は、Jリーグの経営と企業経営を比較して、Jリーグの経営の詳細を提示し、資金を供給する親会社と、異なる種類の顧客を持つJリーグの経営について考察した。福田（2013）は、NPBとの比較を通じて、Jリーグのマネジメントにおける制度的特徴を明らかにするとともに、データの分析を通じて観客動員の伸び悩み、リーグ事業の伸び悩み、クラブ経営における企業依存という三つの課題を提出した。永田（2014）は、2013年から「クラブライセンス制度」を実施してきたJリーグクラブにおける経営安定化を考える中で、プロスポーツ組織の財務健全化は如何にあるべきか、その施策はどの様にあるべきかについて、事例を交えて検証を行った。竹中（2015）は、初代から4代目までのチェアマンの戦略とJリーグと変革の歴史を考察した。斎藤（2017）は、Jリーグ1部J1を取り上げ、1ステージ制と2ステージ制というリーグ戦の大会方式の変更が同リーグのプレー状況にいかなる影響について分析を行った。

「クラブ経営」に関する先行研究は以下の通りである。

松原（2012）は、2011年J1リーグの所属選手データより、年齢構成とポジション、出生地域と出身母体、構成選手の出場時間から、Jクラブが今後どのような方向性を持って組織を形成すべきかを明らかにすることを目的として研究を行った。福原（2014）は、JリーグではJ1とJ2でのディビジョン間の収入と、クラブごとの収入に顕然とした差が存在する背景で、Jクラブを対象として、クラブの成績が、営業収入および広告料収入にいかなる影響を与えるのかを、クラブごとの個体効果の有無と時間効果に焦点を当てて検証した。岡安ら（2016）は、JリーグクラブでGMというポジションに焦点をあてて、そのクラブ内における役割や人事の権限などの現状において研究を行った。境田ら（2018）は、Jリーグに不足しているところと、将来に向けて必要になるところについて論考を行った。

Jリーグの「観客行動」に関する先行研究は以下の通りである。

仲澤ら（2000）は、スポーツ観戦者を対象としたセグメント・マーケティングの必要性、市場の活性化に寄与する女性市場の可能性、女性観戦者の社会心理的特性などに着目

しながら、女性観戦者の特徴を記述し、女性に焦点化したマーケティング戦略を検討した。河合・平田（2008）は、1993年から2005年のJリーグのデータを用いて、毎試合のサンプルをとり、Jリーグにおける観客数の影響を与える決定要因を分析し、従属変数である観客数を約51%説明していることが明らかにした。出口（2012）は、観戦者の認知について経験の違いからその差について研究を行った。岩村（2013）は、Jリーグ観戦者における同伴者数の規模と観戦行動の関係において検証を行った。仲澤ら（2014）は、1990年代後半にJリーグのスタジアム観戦者を対象に収集されたデータを二次的に活用する形で、新しいプロスポーツリーグとして誕生したJリーグの観戦者の動機を検証した。松井ら（2016）は、2015年11月22日に万博記念競技場（ガンバ大阪のホームグラウンド）に試合観戦で来場した観戦者を対象とし、ガンバ大阪のファン・サポーターの特徴について、プロフィール、観戦における頻度・動機・魅力、ホームスタジアムへのアクセス、自身の日常スポーツ活動、スタジアムでの楽しみ、などの視点から分析をした。出口ら（2017）は、クラブ支援意図について、愛着、チームIDとの関係に焦点を当て検討し、Jリーグが推進するクラブに対する支援意識の醸成の浸透度を分析した。谷本ら（2019）は、岡山市にホームタウンとしているファジアーノ岡山を例として、都心部にホームスタジアムがあるプロスポーツチームの観戦者を対象としたモビリティマネジメント施策を提案し、その効果を検証した。吉岡ら（2020）は、Jリーグサッカーファンによる応援するクラブのアウトサイド観戦を対象とした地域活性化の可能性を検討した。

Jリーグの「涉外」の先行研究は以下の通りである。

高橋（2004）は、1993年Jリーグ開幕以前の日本人サッカー選手の国際移籍の歴史的経緯を把握してから、Jリーグ開幕以降の日本人Jリーグ選手の海外移籍について、時系列でその移籍数と移籍先について分析した。そして、日本人Jリーグ選手の国際移籍の要因を心理的要因、技術・適応能力的な要因、社会・制度的な要因に分類して分析を行った。松原（2012）は、2011年シーズン終了後から2012年シーズン開始までの時期において日本人選手だけではなく、外国人選手も含めて、Jチーム所属選手の移籍状況より、新規加入選手、放出選手、残留した選手を分析してから、移籍に関わる問題を考察し及び移籍の問題点について研究をした。栗山（2013）は、日本人選手が、欧州において最もレベルの高いリーグでプレーする状況を実現するために、ファーストステージとして、どのリーグを選択するかに関して研究を行い、オランダを最初の海外移籍先とする戦略が重要だと結論になった。井上（2013）は、Jリーグの東南アジア戦略で策定に重要な都市と策定されていたシンガポールで、その民族性の豊かな国において、プロサッカークラブが現地に適応化するプロセスや、戦略を検討し、ALBSに着目してJリーグの東南アジアにおけるマーケティング戦略策定に資する基礎的な情報収集及び分析を行った。長澤（2019）は、日本人選手がブンデスリーガで活躍するための移籍の準備段階及び移籍後において、必要となる知識と対策の研究を行い、対策として9つの基礎的なポイントを挙げられた。

以上の先行研究を総観してみると、主にJリーグの「経営」、「観客行動」、「涉外」に関する先行研究が行われている。その中、「涉外」の先行研究は、Jリーグから海外リーグへの国際移籍に関する研究のみで、海外リーグからJリーグへの国際移籍に関する研

究は行われていない。また、Ｊリーグの制度研究においても外国人枠に関する研究は行われていない。Ｊリーグのアジア戦略が期待する効果として、提携国枠の選手がＪリーグで活躍し、本国で話題になることで放映権収入やスポンサーやグッズ収入といった収益を得ることであることが考えられる。そこで、現在最も活発に活動をしているタイ国籍選手の活躍に対する効果検証をすることに意義があること考えるが、先行研究から本制度改定による効果検証が十分に行われていない状況であった。

第５節 目的

本研究は、タイ国籍選手がＪリーグで活躍することによってタイ本国での話題や放映環境にどのような影響を与えているかを明らかにすることで、今後のＪリーグのアジア戦略推進に対する示唆を得ることを目的とする。

第2章 研究方法

第1節 Jリーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況の調査

Jリーグ公式イヤーズブック、各クラブの公式HP等を用いて、Jリーグに在籍するタイ国籍選手の活躍状況において文献調査を行った。ここでの活躍状況は、具体的に在籍人数、試合場数、ゴール数、アシスト数、交代出場数、交代退場数、イエローカード数、セカンドイエローカード数、レッドカード数、ペナルティーゴール数、平均1ゴール/分、出場時間(分)という年間合計数値で定義し、集計する。なお、実際にJ1リーグ所属のクラブで在籍して出場記録があった選手のみ対象としてのデータを収集した。対象期間はタイ国籍選手が初登録した2017年シーズンから2021年シーズンまで5年に分け、年ごとにまとめた。

第2節 Jリーグにおけるタイ国籍選手の活躍状況とタイ本国での話題の関係性

この段階の研究において、タイ本国での話題の抽出方法としてGoogle Trends値を採用した。検索地域をタイに設定し、検索トピックを「J1リーグ」にした。Google Trends値の検索の性質上、1年以上の期間で話題の検索を行った場合、月単位での抽出になることから、本研究では2017年から2021年シーズンを単年での抽出を行い、週単位のGoogle Trends値を用いて分析を行った。

分析方法は、各年度においてタイ国籍選手の「試合出場」、「得点」、「アシスト」、「タイ国籍選手同士の対戦」の該当週と非該当週のGoogle Trends値の平均値を比較し、独立サンプルのT検定で分析を行った。

この四つの説明変数を選んだ理由は以下の通りである。

サッカー競技はコンテンツとして事前予測の不可能性がその魅力だと思い、競技の見どころとして「得点」と「アシスト」を説明要因として選んだ。そして、事前に獲得できる情報はエントリーした選手リストのみからで、「出場」と「タイ籍同士対戦」を説明要因に選んだ。

前節で収集したデータの中、この四つの説明要因以外除外した理由は以下の通りである。

総試合場数、総交代出場数、総交代退場数の共通性は「出場した」という意味で、「出場」に合わせた。

平均1ゴール/分は全シーズン終了後に計算したデータで、シーズン中の各試合に影響がないと考える。

イエローカード数、セカンドイエローカード数、レッドカード数を除外した理由としては、これらはサッカー競技のメインコンテンツではないからである。

ペナルティーゴール数を除外した理由は、ペナルティーゴール数でも「ゴール」要因に含まれているからである。

第3節 タイ国におけるJ1リーグの報道環境の調査

文献調査により2012年からのタイにおけるJリーグの放映環境の変遷と、Google Trends値の2012年1月から2021年12月31日までの変遷をまとめた。

第3章 結果

本章では、タイ国籍選手が在籍記録及び出場記録があった2017年シーズンから2021年シーズンまで、年ごとに分析を行った結果である。

第1節 Jリーグにおけるタイ国籍選手の活躍状況とタイ本国での話題の関係性

第1項 2017年シーズン

Jリーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況の調査

2017年シーズンはタイ国籍選手が1人在籍した。チャナティップ選手は表2の通り、「試合場数」は16回、「ゴール数」は0、「アシスト数」は1、「交代出場数」は1回、「交代退場数」は4回、「イエローカード数」は1枚、「セカンドイエローカード数」は0枚、「レッドカード数」は0枚、「ペナルティーゴール数」は0、「1ゴール/分」項目は全シーズンゴール数がゼロのため無し、「出場時間」は1302分であった。

表2 2017年J1リーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況詳細

2017年	チャナティップ
試合場数	16
ゴール数	0
アシスト数	1
交代出場	1
交代退場	4
イエローカード	1
セカンドイエローカード	0
レッドカード	0
ペナルティーゴール	0
1ゴール/分	—
出場時間(分)	1302

タイ国籍選手の活躍状況と Google Trends 値の関係

2017年シーズンのタイでのJ1リーグへのGoogle Trends値変遷は、以下図1の通りである。

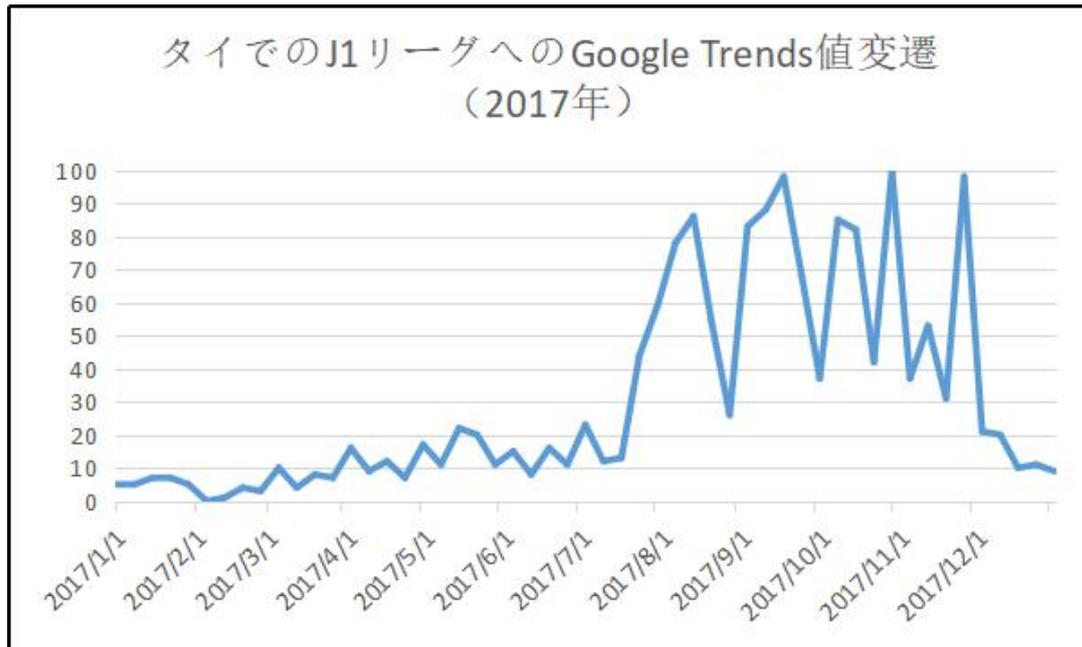


図 1 タイでのJ1リーグへのGoogle Trends 値変遷 (2017年)

次の図 2 の通り、2017 年シーズンの 1 年間で、タイ国籍選手の「出場」と「アシスト」の項目において、該当週と非該当週の Google Trends 値の平均値を比較した。「出場」項目において、該当週は非該当週よりの 60 ポイント高くなっていた。「アシスト」項目において、該当週は非該当週より 25 ポイント低くなっていた。

2017 年における「出場」、「アシスト」項目の該当週と非該当週の Google Trends 値において独立サンプルの T 検定を行った結果、「出場」において 1%水準で有意差が見られた。

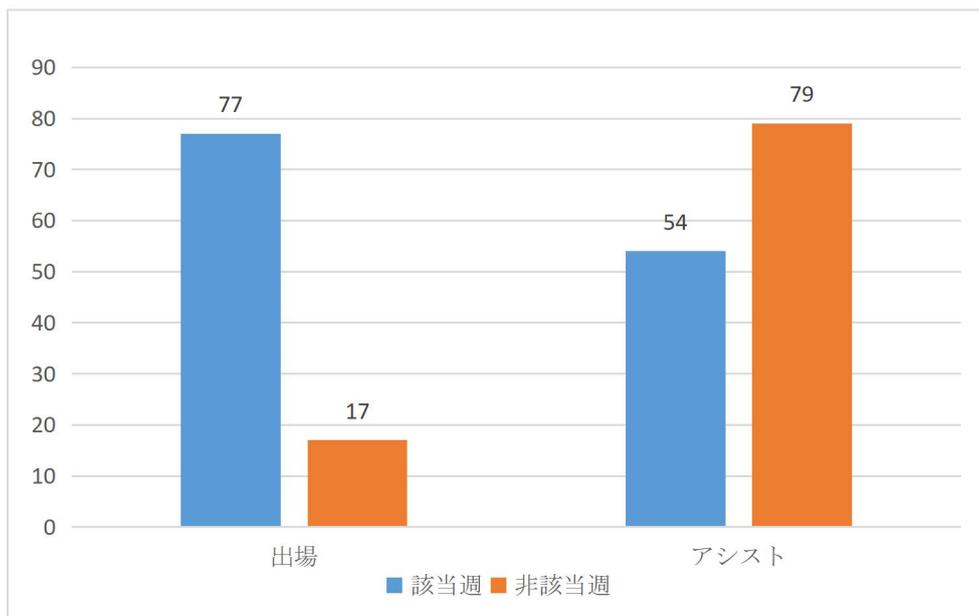


図 2 出場とアシストの Google Trends 平均値の比較 (2017年)

第2項 2018年シーズン

Jリーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況の調査

2018年シーズンはタイ国籍選手が3人在籍した。表3の通り、チャナティップ選手の「試合場数」は30回、「ゴール数」は8、「アシスト数」は2、「交代出場数」は0、「交代退場数」は6、「イエローカード数」は5、「セカンドイエローカード数」は0、「レッドカード数」は0、「ペナルティーゴール数」は0、「1ゴール/分」は330分、「出場時間」は2640分であった。ティーラトン選手の「試合場数」は28回、「ゴール数」は0、「アシスト数」は2、「交代出場数」は5、「交代退場数」は4、「イエローカード数」は4、「セカンドイエローカード数」は0、「レッドカード数」は1、「ペナルティーゴール数」は0、「1ゴール/分」は全シーズンゴール数がゼロのため無し、「出場時間」は2104分であった。ティーラシンの「試合場数」は32回、「ゴール数」は6、「アシスト数」は3、「交代出場数」は19、「交代退場数」は10、「イエローカード数」は3、「セカンドイエローカード数」は0、「レッドカード数」は0、「ペナルティーゴール数」は1、「1ゴール/分」は264分、「出場時間」は1581分であった。

表3 2018年J1リーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況詳細

2018年	チャナティップ	ティーラトン	ティーラシン
試合場数	30	28	32
ゴール数	8	0	6
アシスト数	2	2	3
交代出場	0	5	19
交代退場	6	4	10
イエローカード	5	4	3
セカンドイエローカード	0	0	0
レッドカード	0	1	0
ペナルティーゴール	0	0	1
1ゴール/分	330	—	264
出場時間(分)	2640	2104	1581

タイ国籍選手の活躍状況と Google Trends 値の関係性

2018年シーズンのタイでのJ1リーグへのGoogle Trends値変遷は、以下図3の通りである。

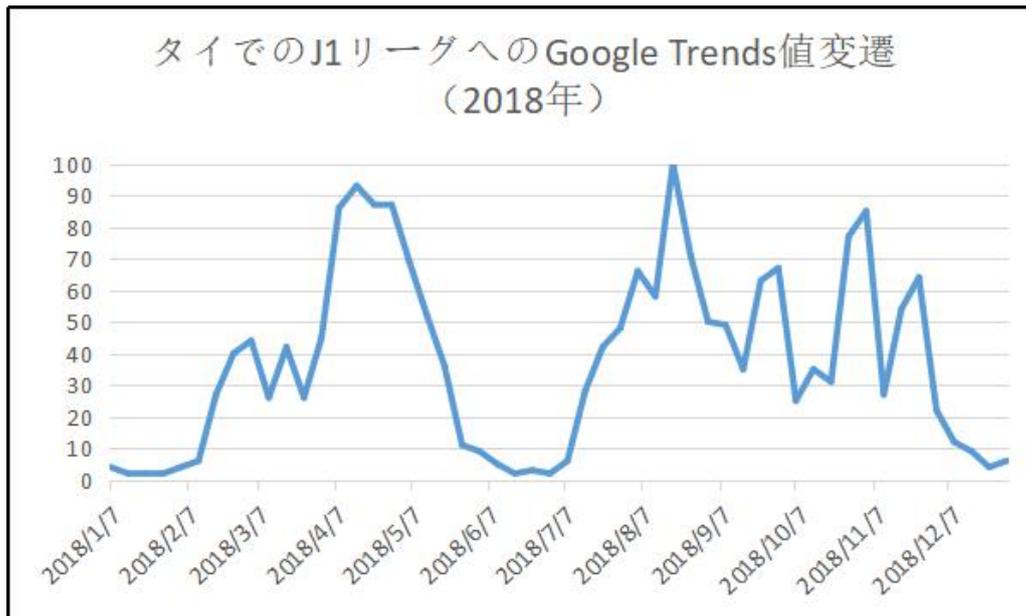


図 3 タイでの J1 リーグへの Google Trends 値変遷 (2018 年)

次の図 4 の通り、2018 年シーズンの一年間で、タイ国籍選手の「出場」、「得点」、「アシスト」、「タイ国籍選手同士の対戦」の 4 項目において、該当週と非該当週の Google Trends 値の平均値を比較した。「出場」項目において、該当週は非該当週より 31 ポイント高くなっていた。「得点」項目において、該当週は非該当週より 4 ポイント高くなっていた。「アシスト」項目において、該当週は非該当週より 1 ポイント低くなっていた。「タイ国籍選手同士の対戦」項目において、該当週は非該当週より 6 ポイント低くなっていた。

2018 年における「出場」、「得点」、「アシスト」、「タイ国籍選手同士の対戦」項目の該当週と非該当週の Google Trends 値において独立サンプルの T 検定を行った結果、「出場」において 1%水準で有意差が見られた。

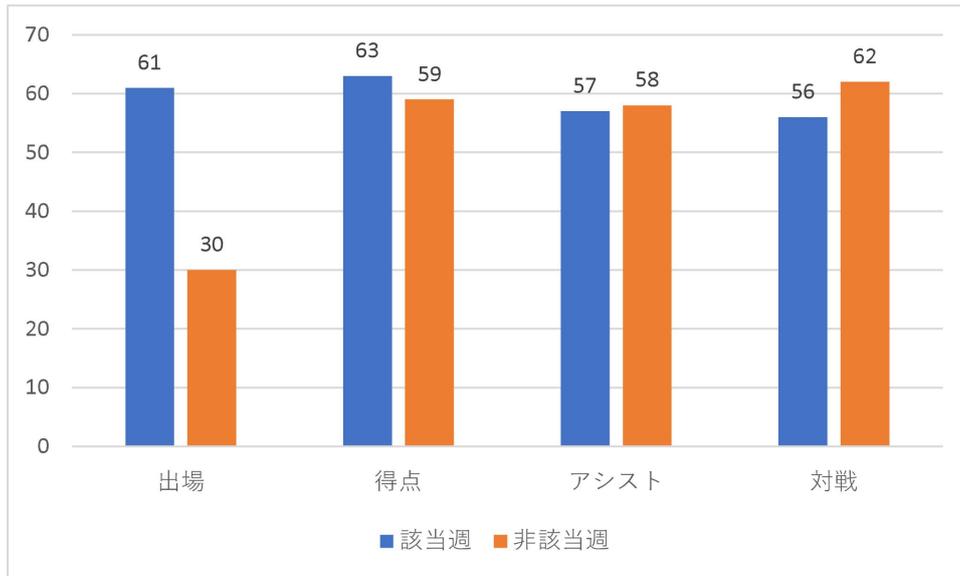


図 4 「出場」「得点」「アシスト」「タイ国籍選手同士の対戦」の Google Trends 平均値 (2018 年)

第 3 項 2019 年シーズン

Jリーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況の調査

2019 年シーズンはタイ国籍選手が 3 人在籍した。表 4 の通り、チャナティップ選手の「試合場数」は 28 回、「ゴール数」は 4、「アシスト数」は 9、「交代出場数」は 10、「交代退場数」は 3、「イエローカード数」は 3、「セカンドイエローカード数」は 0、「レッドカード数」は 0、「ペナルティーゴール数」は 0、「1 ゴール/分」は 608 分、「出場時間」は 2432 分であった。ティーラトン選手の「試合場数」は 25 回、「ゴール数」は 3、「アシスト数」は 4、「交代出場数」は 0、「交代退場数」は 4、「イエローカード数」は 4、「セカンドイエローカード数」は 0、「レッドカード数」は 0、「ペナルティーゴール数」は 0、「1 ゴール/分」は 740 分、「出場時間」は 2221 分であった。ティティパン選手の「試合場数」は 20 回、「ゴール数」は 0、「アシスト数」は 0、「交代出場数」は 8、「交代退場数」は 11、「イエローカード数」は 4、「セカンドイエローカード数」は 0、「レッドカード数」は 0、「ペナルティーゴール数」は 0、「1 ゴール/分」は全シーズンゴール数がゼロのため無し、「出場時間」は 1022 分であった。

表 4 2019 年 J1 リーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況詳細

2019年	チャナティップ	ティーラトン	ティティパン
試合場数	28	25	20
ゴール数	4	3	0
アシスト数	9	4	0
交代出場	0	0	8
交代退場	10	4	11
イエローカード	3	4	4
セカンドイエローカード	0	0	0
レッドカード	0	0	0
ペナルティーゴール	0	0	0
1ゴール/分	608	740	—
出場時間 (分)	2432	2221	1022

タイ国籍選手の活躍状況と Google Trends 値の関係

2019 年シーズンのタイでの J1 リーグへの Google Trends 値変遷は、以下図 5 の通りである。

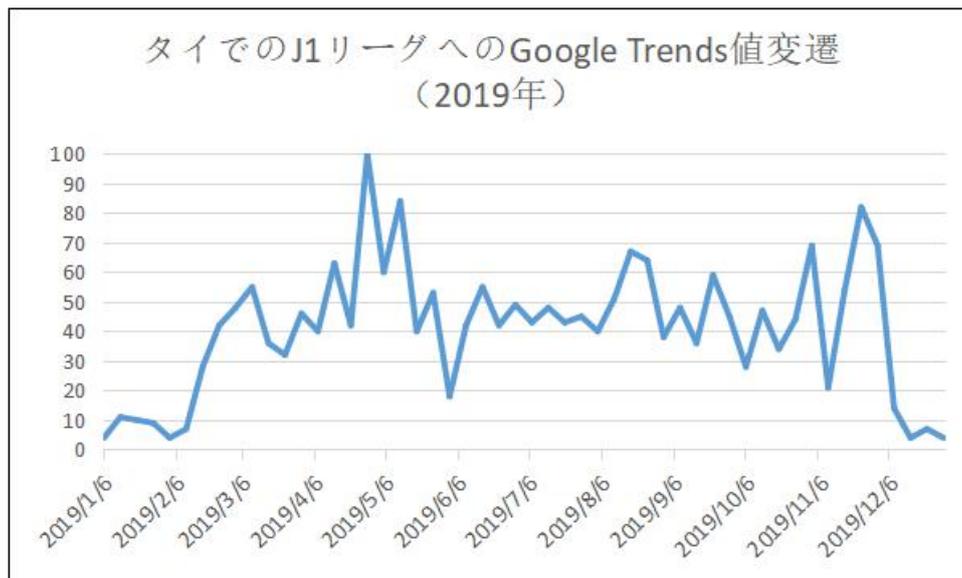


図 5 タイでの J1 リーグへの Google Trends 値変遷 (2019 年)

次の図 6 の通り、2019 年シーズンの一年間で、タイ国籍選手の「出場」、「得点」、「アシスト」、「タイ国籍選手同士の対戦」の 4 項目において、該当週と非該当週の Google Trends 値の平均値を比較した。「出場」項目において、該当週は非該当週より 18 ポイント高くなっていた。「得点」項目において、該当週は非該当週より 12 ポイント高くなっていた。「アシスト」項目において、該当週は非該当週より 6 ポイント高くなっていた。

「タイ国籍選手同士の対戦」項目において、該当週は非該当週より4ポイント低くなっていた。

2019年における「出場」、「得点」、「アシスト」、「タイ国籍選手同士の対戦」項目の該当週と非該当週のGoogle Trends値において独立サンプルのT検定を行った結果、「出場」において1%水準で有意差が見られた。

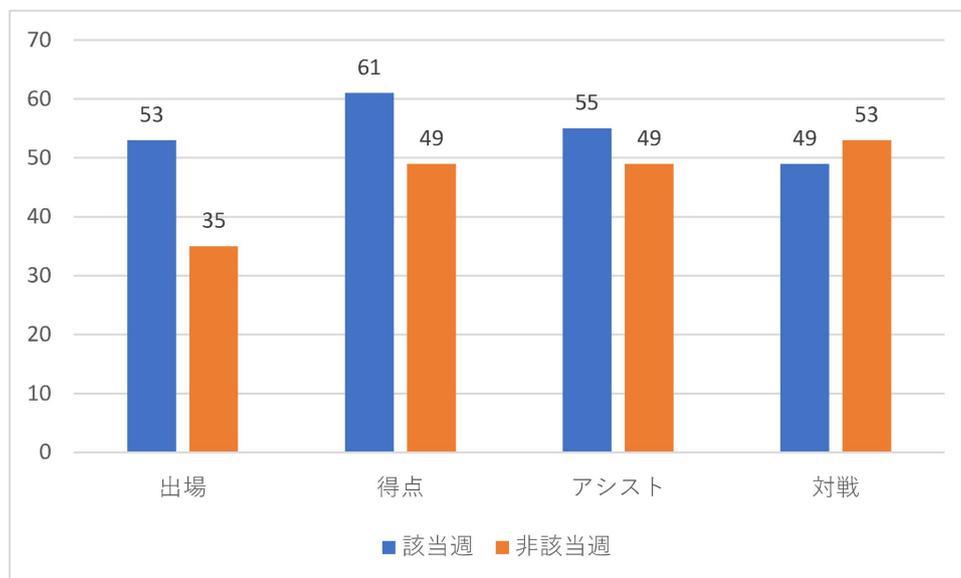


図6 「出場」「得点」「アシスト」「タイ国籍選手同士の対戦」のGoogle Trends平均値(2019年)

第4項 2020年シーズン

Jリーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況の調査

2020年シーズンはタイ国籍選手が3人在籍した。表5の通り、チャナティップ選手の「試合場数」は18回、「ゴール数」は1、「アシスト数」は5、「交代出場数」は1、「交代退場数」は12、「イエローカード数」は1、「セカンドイエローカード数」は0、「レッドカード数」は0、「ペナルティーゴール数」は0、「1ゴール/分」は1269分、「出場時間」は1269分であった。ティーラトン選手の「試合場数」は26回、「ゴール数」は0、「アシスト数」は4、「交代出場数」は3、「交代退場数」は5、「イエローカード数」は4、「セカンドイエローカード数」は0、「レッドカード数」は0、「ペナルティーゴール数」は0、「1ゴール/分」は全シーズンゴール数がゼロのため無し、「出場時間」は1986分であった。ティーラシンの「試合場数」は24回、「ゴール数」は3、「アシスト数」は1、「交代出場数」は18、「交代退場数」は5、「イエローカード数」は0、「セカンドイエローカード数」は0、「レッドカード数」は0、「ペナルティーゴール数」は0、「1ゴール/分」は235分、「出場時間」は704分であった。

表 5 2020 年 J1 リーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況詳細

2020年	チャナティップ	ティーラトン	ティーラシン
試合場数	18	26	24
ゴール数	1	0	3
アシスト数	5	4	1
交代出場	1	3	18
交代退場	12	5	5
イエローカード	1	4	0
セカンドイエローカード	0	0	0
レッドカード	0	0	0
ペナルティーゴール	0	0	0
1ゴール/分	1269	—	235
出場時間 (分)	1269	1986	704

タイ国籍選手の活躍状況と Google Trends 値の関係

2020 年シーズンのタイでの J1 リーグへの Google Trends 値変遷は、以下図 7 の通りである。

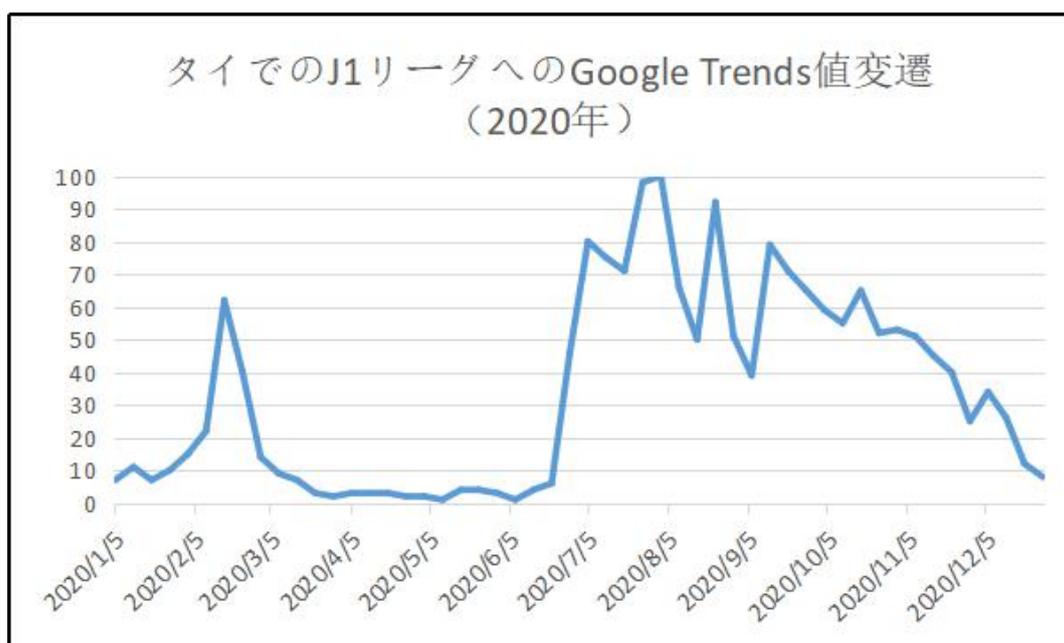


図 7 タイでの J1 リーグへの Google Trends 値変遷 (2020 年)

次の図 8 の通り、2020 年シーズンの一年間で、タイ国籍選手の「出場」、「得点」、「アシスト」、「タイ国籍選手同士の対戦」の 4 項目において、該当週と非該当週の Google Trends 値の平均値を比較した。「出場」項目において、該当週は非該当週より 35 ポイント高くなっていた。「得点」項目において、該当週は非該当週より 9 ポイント高くなっていた。「アシスト」項目において、該当週は非該当週より 10 ポイント高くなっていた。「タイ国籍選手同士の対戦」項目において、該当週は非該当週より 36 ポイント高くなっていた。

2020年における「出場」、「得点」、「アシスト」、「タイ国籍選手同士の対戦」項目の該当週と非該当週のGoogle Trends値において独立サンプルのT検定を行った結果、「出場」と「タイ国籍選手同士の対戦」項目において1%水準で有意差が見られた。

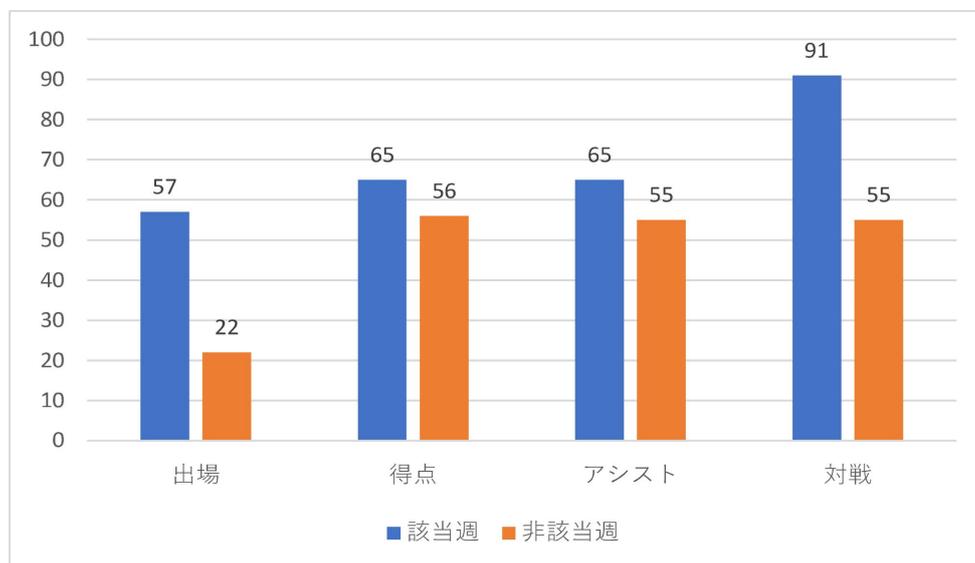


図8 「出場」「得点」「アシスト」「タイ国籍選手同士の対戦」のGoogle Trends 平均値（2020年）

第5項 2021年シーズン

Jリーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況の調査

2021年シーズンはタイ国籍選手が2人在籍した。表6の通り、チャナティップ選手の「試合場数」は23回、「ゴール数」は1、「アシスト数」は6、「交代出場数」は0、「交代退場数」は13、「イエローカード数」は2、「セカンドイエローカード数」は0、「レッドカード数」は0、「ペナルティーゴール数」は0、「1ゴール/分」は1860分、「出場時間」は1860分であった。ティーラトン選手の「試合場数」は27回、「ゴール数」は0、「アシスト数」は2、「交代出場数」は4、「交代退場数」は6、「イエローカード数」は1、「セカンドイエローカード数」は1、「レッドカード数」は0、「ペナルティーゴール数」は0、「1ゴール/分」は全シーズンゴール数がゼロのため無し、「出場時間」は2009分であった。

表 6 2021 年 J1 リーグにおけるタイ国籍選手の在籍及び活躍状況詳細

2021年	チャナティップ	ティーラトン
試合場数	23	27
ゴール数	1	0
アシスト数	6	2
交代出場	0	4
交代退場	13	6
イエローカード	2	1
セカンドイエローカード	0	1
レッドカード	0	0
ペナルティーゴール	0	0
1ゴール/分	1860	—
出場時間(分)	1860	2009

タイ国籍選手の活躍状況と Google Trends 値の関係

2021 年シーズンのタイでの J1 リーグへの Google Trends 値変遷は、以下図 9 の通りである。

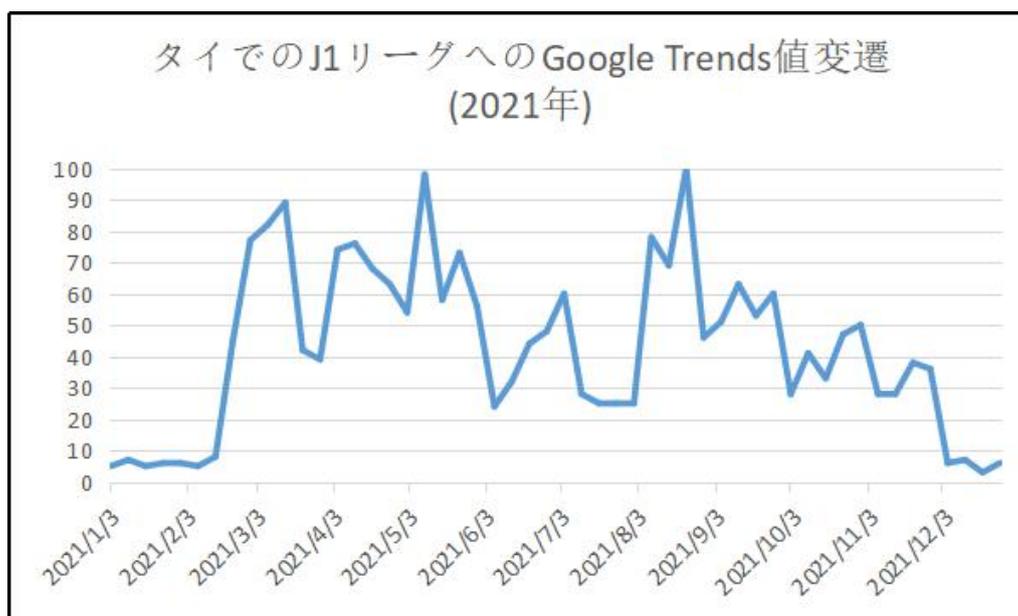


図 9 タイでの J1 リーグへの Google Trends 値変遷 (2021 年)

次の図 10 の通り、2021 年シーズンの一年間で、タイ国籍選手の「出場」、「得点」、「アシスト」、「タイ国籍選手同士の対戦」の 4 項目において、該当週と非該当週の Google Trends 値の平均値を比較した。「出場」項目において、該当週は非該当週より 21 ポイント高くなっていた。「得点」項目において、該当週は非該当週より 15 ポイント低くなっていた。「アシスト」項目において、該当週は非該当週より 10 ポイント低くなっていた。

「タイ国籍選手同士の対戦」項目において、該当週は非該当週より3ポイント高くなっていた。

2021年における「出場」、「得点」、「アシスト」、「タイ国籍選手同士の対戦」項目の該当週と非該当週のGoogle Trends値において独立サンプルのT検定を行った結果、「出場」項目において1%水準で有意差が見られた。

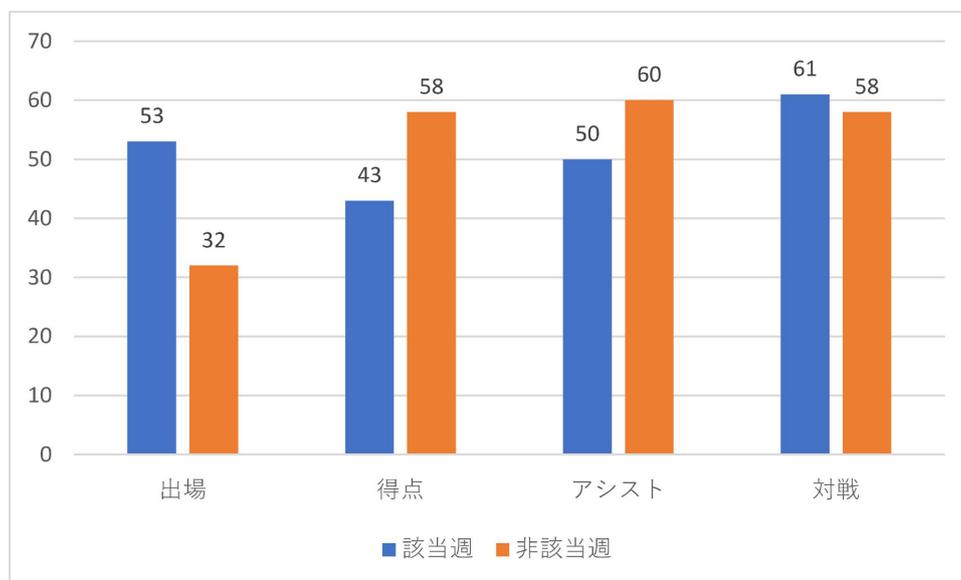


図 10 「出場」「得点」「アシスト」「タイ国籍選手同士の対戦」の Google Trends 平均値 (2021 年)

第2節 タイ国におけるJ1リーグの報道環境

この節は、タイ国内において、Jリーグへの視聴状況を把握するため調査を行った結果である。具体的には、放送の「開始時間」、放映権契約した「放送局・プラットフォーム」、そしてJリーグを放送する具体的な「チャンネル」、放送の「形式」及び「放送頻度」において文献調査を行った。時系列でまとめた表は以下の通りである。

表7 タイ国内のJリーグ視聴環境の変遷

契約期間	放映権獲得	放映形態	チャンネル	放映頻度
2012年3月 ～2017年5月	GMM	ケーブルテレビ (2012年3月～)	GMM Sport1 GMM Football Plus	週3試合
		地上波TV放送 (2012年6月～)	GMM	週2試合
2017年6月 ～2020年1月	TRUE VISIONS	地上波TV放送 (2017年6月～)	True Sport HD2 True Sport HD3 True Sport 6	毎週土日 午後2時、5時
2020年2月～現在	SIAMSPORT	ライブ配信	You Tube、Facebook	累計視聴回数
2020年7月～現在	MCOT	地上波TV放送	公共放送	6000万回

第1項 GMM時代

アジア戦略を実現する一環として、Jリーグは2012年の2月にタイプレミアリーグとパートナーシップ協定を締結していた。その後、2012年3月よりタイのGMM社から、週3試合の頻度でケーブルテレビの形式で放送し始めた。なお、同年度の6月より週2試合の頻度で地上波TV放送の形式で放送開始が決定した。

第2項 TRUE VISIONS 時代



図 11 TRUE VISIONS と Jリーグの記者会見現場（チャナティップ右下 2）

（出典：ArayZ 2017 年 5 月号）

2017 年 5 月 18 日に、タイ大手衛星ケーブルテレビ TRUE Visions（本社タイ）と Jリーグは、タイ・バンコクで会見し、2017 年 6 月より TRUE Visions 社から毎週土曜日、日曜日の午後 2 時と午後 5 時に、三つのチャンネルを通じて地上波 TV 放送の形式で放送開始の予定だと発表した。会見には、J 1 コンサドーレ札幌への移籍を発表したチャナティップ選手（右下 2）も出席した。放送開始後、札幌の試合は地上波でも無料で全試合放送された。

第3項 SIAMSPORT&MCOT 時代

2020 年 2 月 20 日に、明治安田生命 Jリーグはタイの SIAMSPORT と 2020 シーズンより 3 シーズンの放映権契約を締結し、2020 年 2 月よりタイの SIAMSPORT 社から、YouTube と Facebook で無料ライブ配信の方式で放送し始めた。なお、同年度の 7 月より、SIAMSPORT に加え、政府系放送局の MCOT から、地上 TV 放送の形式で放送し始めた。Jリーグの公式資料によると 2020 年シーズンにおいて、Jリーグはタイで合計 6000 万回の視聴数を獲得した。

第4項 Facebookの投稿

タイ語のJリーグのFacebook ページ 2013年5月28日に作成され、筆者が調べた時点で635568人がフォローし、477,363人の「いいね！」が表示した。投稿内容を見ると、タイ国籍選手（特にエース選手）の写真をつけた投稿が「いいね！」を獲得しやすいと発見した。しかし、「タイ人ダービー」のテーマで調べると2021年のみ4回の投稿を行い、平均的に「いいね！」の数は2000だった。

第5項 Jリーグへ登録の選手に対する効果

前述は、タイ国内でのJリーグを視聴する環境に対する調査結果で、次はJリーグへの移籍が選手自身に対する結果を調べた。

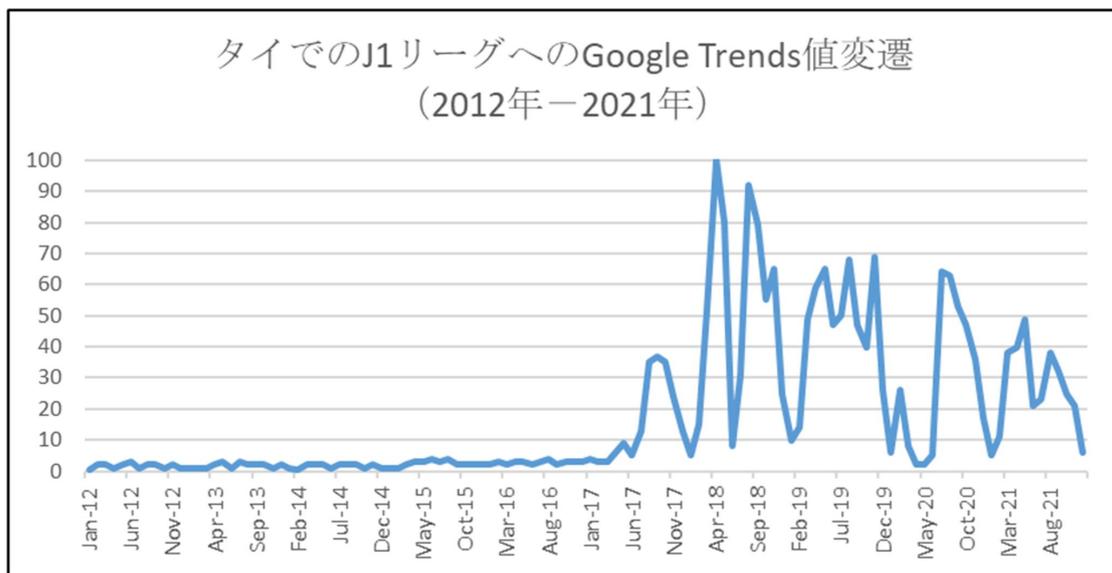


図 12 タイでの J1 リーグへの Google Trends 値変遷 (2012 年-2021 年)

図 12 のように、タイでの J1 リーグへの Google Trends 値は 2017 年より急に上がった。Jリーグの調査によればタイ代表のスター選手であるチャナティップのタイ国内での認知度は札幌に移籍した 2017 年 7 月の時点で 72%あり、国民の大部分が知っている存在であったと言える。新聞記事 (SOCCERKING) によると、Ture Visions は「札幌の試合は地上波でも無料で全試合放送されており、チャナティップの出場試合は誰でも視聴可能な環境となっている」と「2018 年 8 月 19 日の川崎フロンターレと札幌の一戦は、タイ時間 17 時という時間帯のキックオフであったこともあり、1%を超える視聴率を記録して約 40 万人が視聴した。ブリーラム・ユナイテッドやムアントン・ユナイテッドといったタイの人気クラブの試合でも通常 1%を超えることはないから、かなりの高視聴率と言える。」という報道があった。

タイ国籍選手自身の知名度も Jリーグへの移籍によって急上昇している。文献調査によると、「選手自身の知名度も Jリーグへの移籍によって急上昇していること。札幌移籍時に 72 パーセントだったタイ国内でのチャナティップの知名度は、2018 年 12 月には 94 パ

ーセントにまでアップした。ティーラシンも広島移籍前は79パーセントだったのが91パーセントとなり、ティーラトンも75パーセントから92パーセントへと大幅に認知度を上げている。3名ともタイリーグに所属している頃から有名な選手であったが、Jリーグに活躍の場を移したことでサッカーの枠を超えて、すべてのタイ人が知るレベルの選手となったと言えそうだ。」と報道された。

第6項 タイ国籍選手の在籍前後の Google Trends 値

図13は、図12が示した数値を年ごとに作ったものである。図13のように、タイ国籍選手がJリーグに在籍する以前と以後で Google Trends 値の比較を行った結果、2017年以降の方が以前よりも高い結果となった。特に2018年が Google Trends 値が最も高く51.2、次に2019年が46.1となっていた。

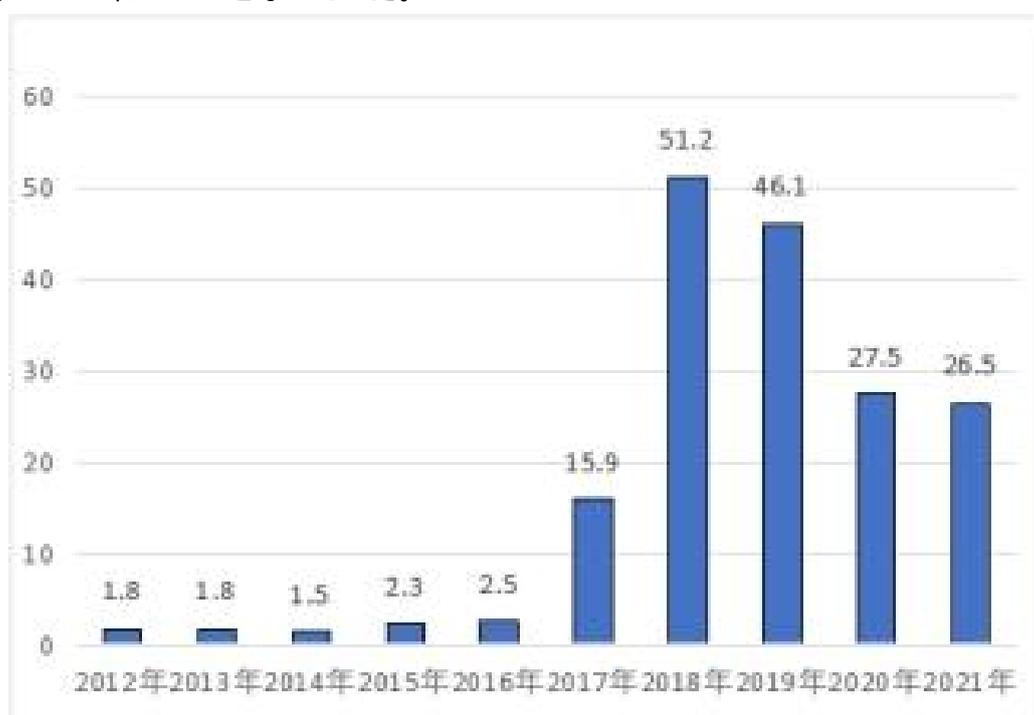


図13 各年の Google Trends の平均値比較 (2012年-2021年)

第3節 Jリーグの海外放映及びアジア戦略の取り組み

Jリーグの公式ホームページ公表した最新の2021年度ファイルによると、海外50以上の国・地域でJリーグを放映している。具体的な内容は表12の通りである。

表8 Jリーグの海外放映状況

国・地域	放送局・プラットフォーム	対象大会
中国	K-BALL	明治安田生命J1リーグ
		明治安田生命J2リーグ
香港	i-Cable	明治安田生命J1リーグ
マカオ	TDM	明治安田生命J1リーグ
マレーシア、ブルネイ	Astro	明治安田生命J1リーグ
インドネシア	K-Vision	明治安田生命J1リーグ
オーストラリア	OPTUS	明治安田生命J1リーグ
イギリス、アイルランド	Premier Sports	明治安田生命J1リーグ
イスラエル	The Sports Channel	明治安田生命J1リーグ
タイ	SIAMSPORT	明治安田生命J1リーグ
ドイツ、スイス、オーストリア	Sportdigital	明治安田生命J1リーグ
セルビア、モンテネグロ、スロベニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、北マケドニア(計6か国)	SportKlub	明治安田生命J1リーグ
アルメニア、アゼルバイジャン、ベラルーシ、ジョージア、カザフスタン、キルギス、モルドバ、ロシア、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン(計11か国)	TSG	明治安田生命J1リーグ
アルジェリア、バーレーン、チャド、コモロ諸島、ジブチ、エジプト、イラン、イラク、ヨルダン、クウェート、レバノン、リビア、モーリタニア、モロッコ、オマーン、パレスチナ、カタール、サウジアラビア、ソマリア、スーダン、シリア、チュニジア、アラブ首長国連邦、イエメン(計24か国)	Dubai Sports	明治安田生命J1リーグ
日本除く全世界 (ニュース権)	SNTV	明治安田生命J1リーグ *ニュース配信のみ

Jリーグはアジア戦略に基づいて、様々な活動を行った。それらについて、以下のJリーグ公式ホームページで示した内容がある。

2012年から本格的にアジア戦略を実行する前、2003年から2006年までに中国、韓国、日本3か国のリーグのチャンピオンチームが対戦する「A3チャンピオンズカップ」を開催した。なお、2008年から2009年まで、日本、韓国のオールスターチームの対戦の大会を開催した。

2012年から、テレビ放送を利用したアジア諸国でのJリーグの露出拡大、Jリーグがこれまで培ってきたノウハウをアジア諸国と共有することや、現地でのサッカークリニック、イベントなどの実施、ASEAN（東アジア諸国連合）のリーグとパートナーシップ協定締結など、具体的な活動を進めた。なお、Jリーグのアジア戦略を宣伝し、アジア各国で行う活動に参加する役割を担う「Jリーグアジアアンバサダー」を創設し、元Jリーグ選手でありタイでプレー経験のある木場昌雄氏、丸山良明氏、また、国内外で豊富なクラブ運営経験のある田部和良氏の3名を任命した。

一方、Jリーグだけではなく、JクラブもJリーグの活動を受け、アジア諸国での活動が活発化している。2015年1月時点で、札幌、清水、磐田、C大阪、神戸、横浜FM、FC琉球の7クラブが、タイやベトナム、ミャンマー、インドネシア、マレーシアのクラブとクラブ間提携をしていた。

第4章 考察

第1節 タイ国籍選手の試合出場とタイ本国での話題の関係性

いずれの年においても出場週と非出場週の平均値の差も統計的に有意を示した。なお、いずれのシーズンにおいてもタイ国籍選手が出場した週の方が Google Trends 値が高い結果となった。これらの結果から、当該国の選手が Jリーグに在籍するだけでは本国での Jリーグ認知拡大効果は期待されず、試合に出場することが最低条件となる。

第2節 2017年タイ国籍選手初の Jリーガー誕生の影響

2012年からタイでは Jリーグの放映が開始されていたものの、実際に Google Trends 値が大幅に上昇したのが 2017年以降であった。すなわち、チャナティップ選手がタイ国籍選手初の Jリーガーとなった年からであった。なお、既にタイ国内で知名度があるチャナティップ選手は移籍を発表した後、同年度の Jリーグとタイの TRUE VISIONS との放映権契約締結の記者会見にも出席したことが、Jリーグの露出度を高めたと考えられる。実際に、2017年の選手出場の Google Trends 値が非出場の週と比較して高い結果にあるように、同選手の活躍状況はタイ本国でも注目を集めていたことが考えられる。

第3節 2019年タイ国籍選手の Jリーグ優勝

2020年に Jリーグの放映権を SIAMSPORT 社と国営放送の MCOT が取得したことにより、Jリーグは放映権料収入の増加だけではなく、オンライン配信と地上波 TV 放送による露出機会が拡大に成功し、Jリーグのアジア戦略においても大きな効果のひとつである。この背景にもタイ国籍選手の活躍があり、2018年にチャナティップ選手が Jリーグベストイレブンに選出、2019年シーズンではティーラトン選手が横浜 F・マリノスの一員としてタイ国籍選手で初めて Jリーグ制覇を経験したことがタイでの注目度の高まりに繋がり、Google Trends 値においても高い結果を示していたことから、タイ国内での Jリーグの注目度を高め、2020年の契約更新のタイミングで TRUE VISIONS と比べて 5 倍の放映権料の大型契約が決定したものと推察される。

第4節 Google Trends 値の変遷

タイでの Jリーグの放送は 2012年から開始したが、Google Trends 値の急上昇はチャナティップ選手が初タイ国籍 Jリーガーとして登録した 2017年からである。そして、チャナティップ選手が Jリーグベストイレブンに選出された 2018年が最高峰になった。その後、ティーラトン選手がタイ国籍 Jリーガーとして初 Jリーグ優勝を獲得した 2019年に二番目の高い数値を示した。

2020年と 2021年において Google Trends 値の年間平均値が大幅減少した。共通要因として、2020年シーズンから SIAMSPORT 社の放映方式が従来の地上波 TV 放送から YouTube や Facebook でのライブ放送に変更して、タイでの Jリーグ情報の一部検索量はウェブサイトから、YouTube と Facebook によって分流されたと考える。次に、2020年と 2021年の個別要因であるが、2020年にチャナティップ選手の負傷による大幅欠席がその原因だと

考える。2021年は、2020年に負傷したチャナティップ選手の出席率が負傷前シーズンと比べて減り、Jリーグに在籍したタイ国籍選手の人数も2020年シーズンと比べて減ったことが要因と考える。つまり、タイ国籍選手の在籍人数が3人程度と少ない状況から怪我等の原因で活躍が見られなくなることから、本国でのJリーグの注目度も減少してしまうことになった。今後、より多くのタイ国籍選手がJリーグに在籍し、常にタイ国籍選手が活躍している状況を作ることが露出機会及びマーケティング上の安定にも繋がることが考えられる。

第5節 タイ国籍選手のトリプルミッション

2017年、2020年の2つの転換点から、タイ国籍選手のJリーグでの活躍が本国での話題の増加に寄与し、更に放映環境の向上へと発展した。つまり、タイ国籍選手の「勝利」と起点に、タイ本国におけるJリーグの「普及」「資金」へとトリプルミッションが好循環した事例と言える。アジア戦略のもと、提携国においてJリーグが話題になりビジネスとして拡大させるためには、同国の選手が主力メンバーとして試合に出場することに始まり、更に優勝争いや個人タイトルを獲得するような活躍することが、好循環のきっかけになることを意味する。

第6節 研究の限界

Google Trendsの検索特性で、一年間の数値を検索すると、週ごとの数値しか収集できないことである。理論的に、独立サンプルのT検定を行う場合、日ごとの数値を導入するのが最適な結果を得られるが、実際の操作では実行できないことである。

第5章 結論

Jリーグにおけるタイ国籍選手の活躍は、タイにおけるJリーグの露出機会の拡大と放映権料の増加といった「勝利」を起点に「普及」と「資金」のトリプルミッションが好循環したJリーグのアジア戦略がもたらした成功事例のひとつである。

今後Jリーグのアジア戦略をさらに加速させるためには、提携国を拡大させるだけでなく、各国のエース級の選手がJリーグでプレーし活躍しやすい環境を作ることが当該国からの注目を集めマーケットの拡大に繋がる。

謝辞

本当に多くの方々のお力添えをいただき、本論文を完成することができました。

誰より初めに、そして最も深く、平田竹男教授に御礼を申し上げます。日々の研究に対して、私に対していただいた叱咤激励が無かったら、特に修士2年生時期に研究の進みが停滞しそうな時に叱られなかったら、本日を迎える事はできませんでした。本当にありがとうございます。

そして、本論文の完成にお力添えをいただいた中村好男教授、児玉ゆう子先生、日下部大次郎先生、そして、特に様々なお世話になった畔蒜洋平先生にも心より御礼申し上げます。

コロナ禍にオンライン授業に変更され、お互いに励まして、精神メンテナンスを整いながら研究し続けている平田研究室の修士学生2年生の市川氏、または修士学生1年生の札野氏、タオ氏にも心から感謝しております。

そして、最後になりましたが、私の大学院進学を応援して下さった両親、そして家族の皆さま、心から感謝しております。私の趣味による進学でしたが、それを認めて下さった皆さまのご支援無しにこの論文の完成は不可能でした。本当にありがとうございます。

皆さまにさせていただいたご支援に対して、本論文の完成だけでは報いた事にならないと思っております。本論文を完成するまで学んだ知識及び経験を活用し、ITスペシャリスト職として採用していただいた企業に活用したいと考えております。

ここに、本論執筆に当たった御礼を述べさせていただくと共に、本研究から学んで経験を活かし、今後のビジネス成功及び社会貢献を目指して粉骨砕身していく私自身の覚悟を記させていただき、謝辞とさせていただきます。

参考文献

- ・アジアサッカーへの貢献の理念. Jリーグ HP. (オンライン) (閲覧日: 2021年12月20日)
<https://www.jleague.jp/aboutj/asia/>
- ・ J. LEAGUE YEARBOOK 2009 編集委員会 (2009) 、 J. LEAGUE YEARBOOK
- ・ J. LEAGUE YEARBOOK 2010 編集委員会 (2010) 、 J. LEAGUE YEARBOOK
- ・ J. LEAGUE YEARBOOK 2011 編集委員会 (2011) 、 J. LEAGUE YEARBOOK
- ・ J. LEAGUE YEARBOOK 2013 編集委員会 (2013) 、 J. LEAGUE YEARBOOK
- ・ J. LEAGUE YEARBOOK 2014 編集委員会 (2014) 、 J. LEAGUE YEARBOOK
- ・ Jリーグ公式ホームページ <https://www.jleague.jp/> (閲覧日 2021年12月19日)
- ・ 永田 靖 ; Jリーグクラブの財務健全化への施策 : クラブライセンス制度の功罪、広島経済大学経済研究論集 = HUE journal of economics and business 37(1), pp. 1-16, 2014-06
- ・ 竹中 嘉久 ; Jリーグ22年の変革と最高経営責任者の戦略、愛知工業大学研究報告 = Bulletin of Aichi Institute of Technology (50), pp. 192-197, 2015-03-31
- ・ 福田 拓哉 ; Jリーグのマネジメントに関する研究 : 制度と課題、立命館経営学 51(6), pp. 115-134, 2013-03
- ・ 尾崎 弘之・大木 裕子 ; Jリーグの経営の研究—企業経営の枠組みによるJリーグの分析、京都マネジメント・レビュー (10), pp. 67-76, 2006-12
- ・ 齊藤 裕志 ; 制度変更と Competitive Balance : Jリーグ・1部 J1におけるリーグ戦方式変更の効果を考える、経済論集 = The Economic review of Toyo University 42(2), pp. 167-187, 2017-03
- ・ 福原 崇之・原田 宗彦 ; Jリーグクラブにおける順位と収入の関係: パネル分析を用いて、スポーツマネジメント研究 6(1), pp. 3-15, 2014
- ・ 松原 悟 ; J1 リーグチーム組織に関する考察、東北学院大学教養学部論集-(161), pp. 55-66, 2012-03
- ・ 岡安 功・松本 耕二・藤口 光紀 ; Jリーグクラブのマネジメント—— GM (ゼネラルマネジャー) の役割に着目して——、広島経済大学研究論集 = HUE journal of humanities, social and natural sciences 38(4), pp. 203-210, 2016-03
- ・ 境田 雅章・伊藤 裕顕・河村 和徳 ; Jリーグのクラブ経営に関する一考察、愛知学院大学教養部紀要 = The Journal of Aichi Gakuin University, Humanities & Sciences : 愛知学院大学論叢 65(3), pp. 1-13, 2018
- ・ 谷本 翔平・氏原 岳人 ; Jリーグの試合観戦者を対象としたモビリティ・マネジメント: ファジアーノ岡山を事例として、都市計画論文集 54(3), pp. 1253-1259, 2019
- ・ 出口 順子・沖村 多賀典・井澤 悠樹・徳山 友・菊池 秀夫 ; Jリーグ観戦者のクラブ支援意図 : チームアイデンティフィケーションとの関係性の検討、スポーツマネジメント研究 9(2), pp. 19-34, 2017

- ・岩村 聡；J リーグ観戦者の観戦行動に関する研究—観戦時の同伴者数の規模に着目して—、筑波大学体育系紀要 = The bulletin of Faculty of Health and Sport Sciences 36, pp. 105-109, 2013
- ・松井 健・巽 樹里・平谷 浩貴・松林 政一・新名 久美・加賀井 大輝；J リーグサッカークラブのファン・サポーターを対象とした観戦者調査—ガンバ大阪クラブのホームゲーム観戦者の事例—、追手門学院大学スポーツ研究センター紀要:Journal of Sports Research Center, Otomon Gakuin University (1), pp. 49-68, 2016-03-31
- ・吉岡 誉将・杉本 興運・菊地 俊夫；J リーグサッカーファンのアウェイ戦観戦行動と地域受容 —スポーツイベントによる地域活性化に向けた示唆—、観光科学研究 = The international journal of tourism science (13), pp. 1-11, 2020-03
- ・仲澤 眞・平川 澄子・ダン マホーニー・メアリー ハムス・戸苅 次郎・中塚 義実；J リーグの女性観戦者に関する研究、スポーツ産業学研究 10(1), pp. 45-57, 2000
- ・仲澤 眞・吉田 政幸・岩村 聡；J リーグ観戦者の動機因子:J リーグの導入期における二次的データの検証、スポーツマネジメント研究 6(1), pp. 17-35, 2014
- ・出口 順子；サッカー観戦者の認知についての研究：経験の差に着目して、東海学園大学研究紀要：社会科学研究編 (17), pp. 55-72, 2012-03-31
- ・河合 慎祐；J リーグの観客数に影響を与える要因に関する研究、スポーツ産業学研究 Vol. 18, No. 2(2008), pp. 11-19.
- ・松原 悟・高橋 信二；J リーグ移籍に関する考察、東北学院大学教養学部論集 (162), pp. 17-30, 2012-08
- ・高橋 義雄；日本人J リーグ選手の国際移籍の要因に関する研究、スポーツ産業学研究 14(1), pp. 13-22, 2004
- ・栗山 貴行；J リーグ選手を最終的にイングランドプレミアリーグにステップアップさせるための最初の海外移籍に関する研究、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科トップスポーツマネジメントコース修士論文、2013
- ・井上 尊寛；J リーグにおける東南アジア戦略について：アルビレックス新潟シンガポールに着目して、法政大学体育・スポーツ研究センター紀要 = 法政大学体育・スポーツ研究センター紀要 (31), pp. 1-6, 2013-03-31
- ・長澤 和輝；日本人選手がドイツ・ブンデスリーガで活躍する為の要因と方策、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科トップスポーツマネジメントコース修士論文、2019
- ・角田 孝昭・吉田 光男・津川 翔・山本 幹雄状態空間モデルを用いた検索トレンドとページビューからの自動車販売台数の予測、人工知能学会全国大会論文集、第 29 回 (2015)
- ・別司 大典；新語・流行語分析: Google Trends を利用して、論文集: 金沢大学人間社会学域経済学類社会言語学演習 11 (29) 、 pp. 29-46、2016-03-23
- ・HYUNYOUNG CHOI・HAL VARIAN；Predicting the Present with Google Trends、Special Issue: Selected Papers from the 40th Australian Conference of Economists、Volume88, Issues1Pages 2-9、June 2012
- ・TransfermarktHP

<https://www.transfermarkt.com/>

・ J 1 リーグ戦、6 月からタイで地上波放送開始. Twitter (オンライン) (閲覧日 : 2021 年 12 月 20 日)

<https://www.sakaiku.jp/topics/2012/002511.html#>

・ J リーグ、アジアでの放映拡大に前進…タイの「true vision」がバンコクで会見. SOCCERKING. (オンライン) (閲覧日 : 2021 年 12 月 20 日)

<https://www.soccer-king.jp/news/japan/jl/20170518/589100.html>

・ J リーグの海外放映が大幅拡大！地上波進出のタイ『MCOT』の番宣動画がこれ. Goly. (オンライン) (閲覧日 : 2021 年 12 月 20 日)

<https://qoly.jp/2020/07/02/j-league-broadcast-mcot-oks-1>

・ J リーグ、タイやオーストラリアなど世界各国で放送が決定！. excite. (オンライン) (閲覧日 : 2021 年 12 月 20 日)

https://www.excite.co.jp/news/article/FOOTBALLTRIBE_164484/

・ アジアにおける J リーグの認知度は？…タイでの札幌戦の視聴率は国内リーグと同等以上. SOCCERKING. (オンライン) (閲覧日 : 2021 年 12 月 20 日)

<https://www.soccer-king.jp/news/world/asia/20200629/1089130.html>

・ J リーグ、タイ TRUE VISIONS で 6 月から放送開始. ArayZ. (オンライン) (閲覧日 : 2021 年 12 月 20 日)

<https://arayz.com/jleague-truevisions-tvbroadcasting-may/>

・ 2021 明治安田生命 J リーグ海外 50 以上の国・地域で放映へ. J リーグ. (オンライン) (閲覧日 : 2022 年 2 月 5 日)

<https://www.jleague.jp/news/article/19380/>

・ アジアへの展開. J リーグ. (オンライン) (閲覧日 : 2022 年 2 月 5 日)

<https://aboutj.jleague.jp/corporate/global/asia/>